

天岩戸神社：西本宮と東本宮

天照大神を祀るこの神社は、西本宮と東本宮の2つの聖域にわかれて並んでいます。西本宮は、「大日靈尊(おおひるめのみこと)」として知られる子どもとしての天照大神に捧げられています。この社は大日靈尊が弟への怒りを避け、世界を暗闇で満たした洞窟の近くにありますが、天の神々(神)によって考えられた天鈿女の舞によって導かれました。隠れた洞窟は天岩戸として知られており、西本宮は今日、木の後ろに隠れた見えない洞窟の比喩的な具体化によって天照大神を崇拝します。洞窟は非常に神聖なため、人間が近づくことはできませんが、峡谷の向かいにある展望台から見ることはできます。西本宮からの小道は、天の安河原の川沿いの洞窟に至り、そこで天照大神の光を世界に戻す方法を見つけるために神々が出会いました。

1970年に天岩戸神社に組み込まれた東本宮は、天照大神が洞窟から出た後に住むと考えられていた最初の場所を清めます。ここに神社があったことは明確に文書に残されていませんが、1つは武将の大神惟基(おおがこれもと)によって812年に再建されたと言われています。その時に彼がみた夢は、彼が天照大神の崇拝を祈り、神聖化することを約束するまで彼を怖がらせました。神社の敷地を焼失した火災の後、1707年に復興しました。